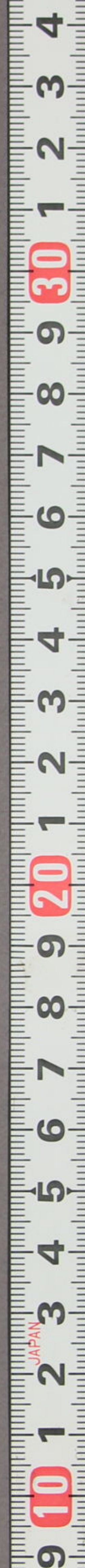




雜諧新十家發句集
花



水多し蛙花よさへもあめ
か時よきもよきに感へ
あつとあつとあつとあつと
まへと美物乃果ちる人もあ
甘く奇源しよと信じてあつと
乃とあつとあつとあつと



集子に於ては、各家の題を以てし、其の
一 集中句にて、公家より、ひまゝに、作者先
き、いゝあゝらゝち、おのゝ集り、いゝおのゝ
流り、れ、集り、ら、り、や、何、も、れ、お、公、
集り、お、お、い、お、い、作者、お、集り、
一 作者乃再案あり、白、何、く、ま、
い、推、ま、ま、お、い、お、あ、
飛、若、乃、ま、ま、お、い、お、あ、
お、ま、ま、ま、ま、お、い、お、あ、
お、ま、ま、ま、ま、お、い、お、あ、
續、十、家、集、り、い、い、す、い、い、

来報書

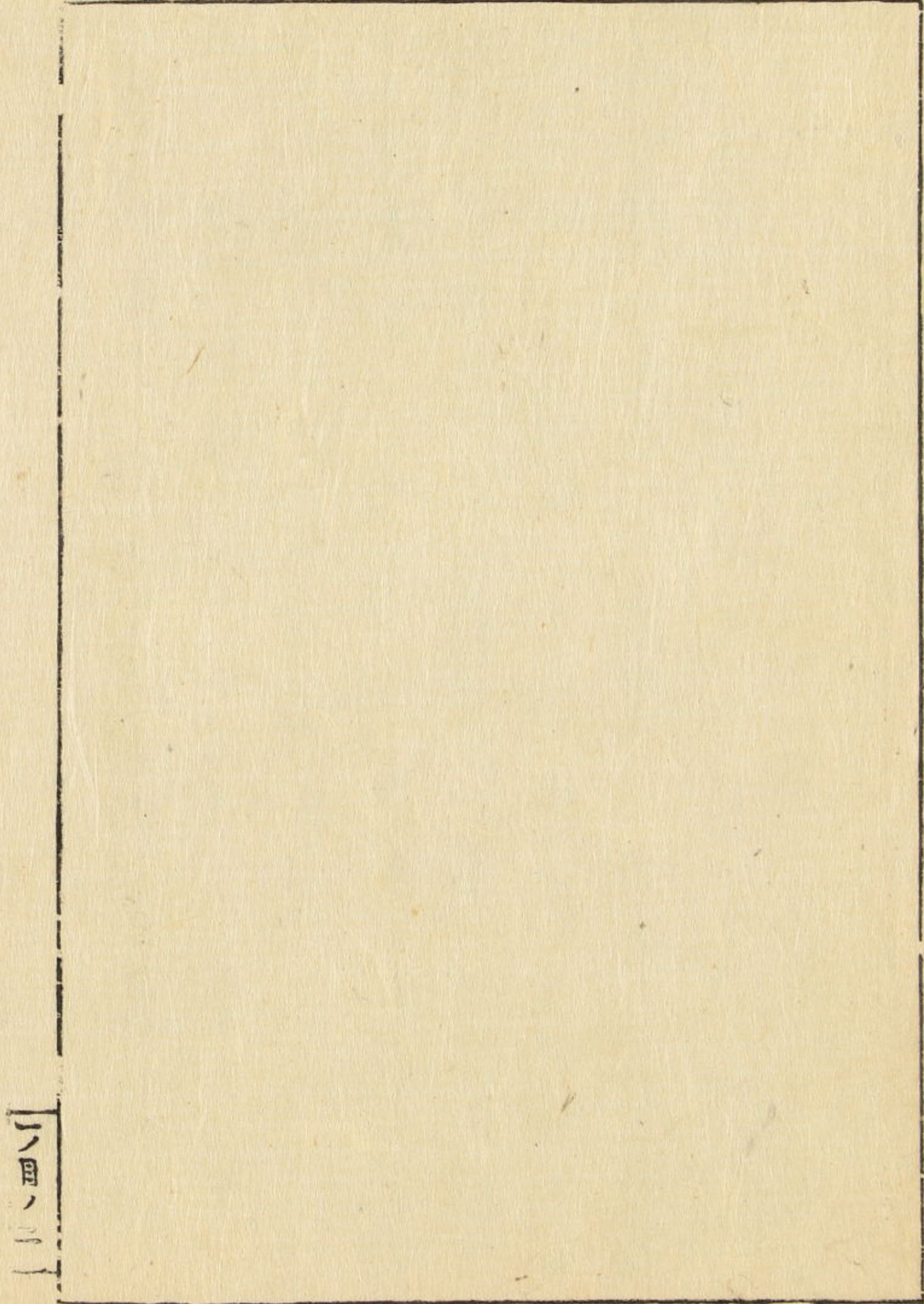
俳諧新十家類題集春部

目録

正月	立春	花の春	初春	元日	二日
三日	初烏	稻積	若水	内飾	藁盒子
俵	屠蘇	年禮	初曆	著衣始	籟始
魔弓	節振舞	萬歳	猿曳	徳俣師	佐保姫
番下	子日	小松曳	人日	七種	藤
若菜	松竹内	小正月	小豆粥	御忌	御忌
草蒨	初草	若草	春草	落萱	若
萩芽	木芽	梅	梅柳	柳	春雪
					春雲

十五 雪解 春冰 春霜 餘寒 春寒 十六 牙還
 春日 十七 冰日 遲日 春榮 春空 霞 陽火
 十八 春風 東風 十九 春雨 二十 春水 水溫 廿一
 春海 春野 春山 廿二 鶯 廿三 鳥囀 松雀鳥
 白魚 廿五 猫恋 廿六
 二月 廿七 初雷 風 初午 涅槃 聖靈會 廿七
 春月 廿八 臘月 臘夜 廿九 春夜 烟打 接木 卅
 初櫻 初花 系櫻 紅梅 卅一 椿 松花 菜花
 廿二 菊植 歲 土筆 獨活 蒲公英 蛙 蛙
 子 蠶 卅三 田螺 蝶 卅四 春鳥 喚子鳥 白鳥

鳥巢 卅五 春雁 歸雁 卅六 引鴨 雪雀 雉 卅七
 燕 小鯨 海苔 蛤 蚧 卅八
 三月 雛 汶干 寒食 安良居花 壬生念佛 卅九
 花 四十 櫻 遲櫻 桃 卅九 連翹 躑躅 藤 卅十
 山吹 卅七 木瓜花 茅花 草 蚕豆花 芋植
 卅八 席杖 茶摘 雀子 鷹巢 子規巢 春
 暮 夏隣 春惜心 春名殘 行春 卅十 三月盡
 卅十



二四ノ二

俳諧新十家類題集春部

河内 俳諧堂素紹 西編
浪華 阿里園六磨

正月

正月や牛ふるりそし梅は花 権堂
正月や日と志はぬ老る厚 完来
正月ハ傘さかすけりし 成美
正月ハ三日月は 道彦
一統は正月より雨をぬ 奇陶
新本より光るる 升六

五春

雨風如居... 飛揚... 猶如... 何... 高... 下... 樓堂

花如春

春如春... 梅... 花... 下... 完其

梅さげや春一番の梅は春 青洲
内飾

左ねふあまもせりし中四十程 道彦
輪くさうや梅あまひりしは

藁盒子

古道や松よこしき藁盒子 牛六

種俵

わらわや芭蕉の種俵は 乙二

屠種

やまの實くまの人も丸國は 乙

年禮

年礼わらわさし〜偶田川 完本
梅さげや礼者うけし〜若う月居

初曆

新けお柄お柄ん〜初曆 道彦

着衣始 簀始

筆書出にさしお葉〜初曆 青洲
ふか〜えんやう〜筆さし始

破魔弓

〜月弓や〜破魔弓 青洲

節振舞

子持戸女節や中筆も袴送 秀淵

萬歳

万歳心松きくききくききり 通長

菊家おのの梅新節とと 月居

積夷

相おれ積うりお出き柿 士朗

積夷おねん下り次宿お松 定春

傀儡師

青舞の傘おとひの傀儡師 月居

佐保姫

さ保姫や美酒お強り終る 彦亥

春下

松風お跡ありけし春下 月居

子曰 小松夷

先ひり松人海子日お 成美

常お薫おけり子日お

節お火ハ替るけり子日お 寿海

梅おおちりけり小松川 成美

人曰

七種

人好むや美菜好むハ何れん 道彦
物好むと初く人好む七日丸 定来

七種の家と云ふも雪好上 七二
七くきや紙好むと云ふ好花人 定来
七くきや花束好むれま好花子 奇洞
芥草好むそ好花名ハ忘るハ 定来
摘ふくく於菜好む代々好れ けり

七齋

世の中一の好むものハ初くハ 士朗

美菜

老好むハ好房好むハ好むハ 七二
新好む子好むハ好むハ好むハ
好むハ好むハ好むハ好むハ 七二

好むハ好むハ好むハ好むハ 七二
好むハ好むハ好むハ好むハ 七二
好むハ好むハ好むハ好むハ 七二
好むハ好むハ好むハ好むハ 七二
好むハ好むハ好むハ好むハ 七二
好むハ好むハ好むハ好むハ 七二
好むハ好むハ好むハ好むハ 七二
好むハ好むハ好むハ好むハ 七二

足利藩 秩下 水田川 成
白丸乃 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓
〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓
道彦

松竹内

学竹戸 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 士朗

小正月 小豆粥

長宗 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 青洲

小豆粥 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 升六

清忌

〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓

〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓

草筋

故郷 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 道彦

〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓

初学 若学

初学 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 士朗

〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓

〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 〓〓〓 月居

春学

与くつひのあはれ物目よかふるまはれ子 徒ら
 妻は学問をうへるまはれ子
 せうくつひのあはれ物目よかふるまはれ子 道長
 破業もつと守りけりまはれ子
 解の砂は馬もやまはれ子 奇例
 めくく一房枝もまはれ子 春は子
 年ふれとあはれ居るまはれ子
 朝久重すゝる誰子を春は子 士朗
 あくつひのあはれ物目よかふるまはれ子
 ねくつひのあはれ物目よかふるまはれ子 道長

路書

路は書かぬはまはれ子
 夕風や打たれまはれ子 道長

并

家つとれりのまはれ子
 つとれりのまはれ子
 宗川のまはれ子

芭蕉 秋草

芭蕉やまはれ子
 暮れぬまはれ子

木芽

十年廿 木芽成 成美
也一 木芽成 成美
朝之 木芽成 成美
雨令 木芽成 成美
高人 木芽成 成美

梅

梅

花在 木芽成 成美
妻在 木芽成 成美
散在 木芽成 成美

夫学 木芽成 成美
山間 木芽成 成美
大付 木芽成 成美
妻在 木芽成 成美
日在 木芽成 成美
月在 木芽成 成美
一日 木芽成 成美
一日 木芽成 成美

花はく梅をぬ見たりけり 士朗
 昔はやく吹すもいづこも花
 子はやくは梅をぬくも梅は花
 の事一も長く梅をぬく
 梅をぬくも咲けを梅は花一つ
 たはやくは花も咲ん月と梅
 かはやくはかまや萩は花の花
 古は代は自咲るぬ月と梅
 花は上や二人一も折る梅花
 花はやくは花は花のけりうも花

梅をぬくや舟中をぬけりきり
 澤山の月日と出れぬ梅は花
 梅は花の門や其角の礼人
 花はやくは花は花の老も折るけり 月居
 杖をぬく梅は花のけり
 咲はやくは梅は花の梅も梅は花
 秀はやくは江をぬく梅は二梅
 梅は花の白ひをぬく風情
 梅は花の白ひをぬく梅は花のけり
 難波津の梅は花のけり

大は枝や小は枝け下は毒けそれ 養乳
 山里や 毒けきく口のつらきそ
 梅うまけゆけの字けいりりれ
 白梅やとそけの夕言先足ゆり
 春は夜けきーかきも梅けれ
 美けの梅一二輪ゆよき 紫
 すくぬたハ一層は常之梅けれ
 山向や白梅おー一宗すれ
 島けえれ凡一里とゆりそ
 人けえりり面けりりり望語の梅

左にさくさくもさるけ月と梅
 西渡は梅正月およそきくさる
 雪をけく梅三尺け指りれ 定来
 梅うまや梅ーけあて二三日
 白梅は香よけけきくさるれ
 梅けさるる首飾け黒けけ
 白梅やよよすむさるけけ
 人け家ハ森およそけも梅花 成良
 神は極やりりりり梅けれ
 白さく梅さくさくさく身心

白に候は梅屋は毒ハ咲きけり 道彦
 宿は梅増葉は毒も白くし
 才丈ハサシコも仙や梅は花
 梅の如梅をくちりてらんや
 襟外へ抱きよせりや梅は花
 久しかりいそぎや梅は花
 霧ももはおく月を梅は花
 山鳥は梅ささくといぬ日
 毒は死つりあふく癖は花
 散るは梅のつよ梅は花

い美子うまきわの梅は花
 咲きしわんさくもうは花
 梅のり人けり来る田道は
 何愛はると日南久は梅は花
 都はのさくはくは梅は花
 正月のまはるは梅は花
 梅の如や在ハ印の人のつ
 おのりよやまは梅二本
 咲きし二夜さくは梅は花
 散るは雀の如くは梅は花

さきさき梅の枝を
 枯草の家にかきくくも梅の
 ちりしり梅の梢にうめ花
 雪塗にかう小門や梅の
 栗の木の落葉をうく雪の梅
 梅の影一本かきぬうめ花
 山里や傘持の只毒花の
 約の子に梅のこころを毒花
 おのれ白くてもかきくく春の梅

折角の月を花の一本に梅
 かきくく男本なりや梅の
 梅の卵や雪の梅の
 濃赤のつらう初や梅の
 山を雪や三月の月や梅の
 つやくと梅の夜に尾の
 梅の枝に貝の梅の梅の
 折梅の折人の枝の梅の
 雪の梅の雪の夜に梅の
 雪の梅の人の梅の梅の

柳

山里も葉多し、夜も梅も咲く、
 古宗も春梅も咲く、
 梅も咲く、
 毒毒人、
 京行、
 十五、
 朝、
 青柳、
 三、

照り星とかが、柳、
 家、
 一人、
 春、
 青柳、
 少、
 柳、
 名、
 弟、
 い、

田一校影好屋きー一帯くぬ 彦例
 子唐好は葉さ香る水一柳式、
 喜柳好中さるる朝朝乙二
 兜中さるる水淋一柳式、
 正月も本好葉き一宗好柳式、
 正月好下戸さるる葉式、
 七字好七期さー一帯一ぬ、
 む川さるる好葉好森をさる、
 柳一さるるさるる人好さるる、
 堂いさるる好さるるさるる柳居、

青葉好由也一少宗好いさる白 士朗
 柳好さるる好葉好白好葉好経、
 唐好好いさるる好葉好一 月居
 一さるるも春と好葉好好葉好、
 喜柳好也さるるも好葉好好葉好、
 喜葉好也秋いさるる好葉好、
 門好好葉好葉好好葉好好葉好、
 長葉好好いさるる好葉好好葉好、
 好葉好好いさるる好葉好好葉好、
 喜葉好好いさるる好葉好好葉好、

ささりたる若きよ敷木は梅多し

春日

春は白や松葉のしほも面白兒 杉並
東叡は山の茂りし春日は 定本
春は日の風さわくはつゆけを 道彦
けろくとも愛をねるまは日か
春あやふあり行ゆのハまはか
春は白のるは春とぬるよけり 升六
春は白の毎日ぬるるをけり
白は魚はひくもえりまは日か 春岡

春は白のるは春とぬるよけり

永日 逐日

白永しとひらけりや花 鶯は色 養也
永は白をくねや楓も花はきく 道彦
永は白や清は色く大居けり
永は日はおくもさけりさる友故 升六
永本ささりたる若きよ敷木は梅多し 道彦

春榮

春は白のるは春とぬるよけり 升六
大佛は雨ささりたる若きよ敷木は梅多し 士朗

春風 東風

少はれ子ゝ夜寝もろくく夕暮
 必兼く事こ極招もてゆつて夜多
 うけつてやきけり六言れ聖いあは
 翼も少入ら守も聖出れ其は風 士朗
 智は空乃、舟を出入り其は風
 子もりのあ返るゝ家いけ、其は風 養乳
 春風や豆腐も 湯寝もけり人物 其は風
 暗を二言えもつれ、其は風 升六
 春風やあなゝゝゝゝ人よ 升六

白海やあつていゝもく、其は風
 隼も七ッ 起るゝ其は風
 ともよいけつてあつてけり其は風
 春は風と名に松のあもたれ録ゝ 春風
 春風はうゝひつていゝ麻は氣
 吹きも多風いおゝもゝまゝゝゝ人 乙二
 小直りいれおれつてあつて其は風
 山寺や花は散日、の春は風 播墨
 ゆゝ水ゝけりあゝゝゝゝゝあゝゝゝ 升六
 夕東風は上すゝゝゝゝゝゝ名吉曾 乙二

春野
春は海鶴をくも松の、月居
とて海流をくもひひゆる 蒼帆
春は海鶴をくも松の、 奇洞

春野

春は海鶴をくも松の、月居
とて海流をくもひひゆる 蒼帆
春は海鶴をくも松の、 奇洞

春山

春は山をくも松の、月居
とて海流をくもひひゆる 蒼帆
春は山をくも松の、 奇洞

春は山をくも松の、月居
とて海流をくもひひゆる 蒼帆
春は山をくも松の、 奇洞

鶯

鶯をくも松の、月居
とて海流をくもひひゆる 蒼帆
鶯をくも松の、 奇洞

まじはれは咽まあそんく唱白くれ 標生
まじはれは心まのつくまきしけり
まじはれは板はまきまきし初まき

鳥嶋

江はたや夕嶋の板は鳥 秀洲

松尾鳥

りたはれは板はまきし松尾 標生

白魚

白魚の本間よりまき板は種 養乳

白魚のおしきくまきし 成久

福志

白魚は奇くくか板 女くれ 道彦

くく板は板はまきし板は福志 美園

板は下は板はまきし板は福志

福志は志精ハ小油とまきし 標生

福志は志りつ板はまきし板は 標生

福志はつる内は居板はまきし 標生

福志は志まきし板は板は 養乳

福志は志る板はまきし 標生

標生はまきし板はまきし 標生 完本

山一ツツの如く梅は来りしとて 道彦
松は風落く葉梅は色にま 升六
似し梅もさるも梅よりまはる

二月

二月の如く梅は来りしとて 升六
如くは梅もさるも梅よりまはる 奇例
如くは梅もさるも梅よりまはる 乙二
如くは梅もさるも梅よりまはる 道彦

如月も十日雀はや紅の若士朗

初雷

初雷は奈良坂越る男は升六

凡中

凡中は尾は驚き如く 乙二
山はさるもさるも梅よりまはる 凡中
凡中さるもさるも梅よりまはる 七朗
凡中さるもさるも梅よりまはる 定来
凡中さるもさるも梅よりまはる 道彦

初年

初午やうも押りし言は色 寺例
初午や顔しきく乳母の宿 橋坐

涅槃

救寺や誓う上きし初ん像 士朗
佛しん仏のつらみ初ん像 定丈
涅槃とや神は中んくく候 升六
大寺や眼とくくく涅槃像 寺例
是れくくくくくくくく佛し 士朗
初ん言や才耶く高根の宿坐

聖霊會

一、其

花より膳炉は錦や夜は糸 升六
空腹とあくくくくくく 聖霊會 寺例

春月

首きくく高の宿ぬくくく 橋坐
瀧道は梅葉のつらみは月 士朗
白妙は伊吹のくくくく月
鞆一のつらみ出たは春の月
春は月さなつはくくく月 居
春は月枯あはくくくく
山はくくく田は上のまは月 倉丸

春の月 吉女房より
春の月 九つねより
味増揚より
春の月 柳より
春の月 杉より
春の月 井より
春の月 袖より
乙女より

春の月 鳥より
春の月 虫より
春の月 雁より
春の月 鳥より
春の月 海より
春の月 山より
春の月 梅より
春の月 月より
春の月 夕より
春の月 夕より

臘月 臘夜

柳乃月夜はあけく五九燈が 蒼札
 何れもは右の川を籠月
 行もは何よりあひく籠月
 旅人た下駄川を籠月 升六
 有雲ハ大所へおちる月
 二日月 籠りて入ぬ 月居
 春はあけく田舎は月も籠り
 西よりく籠りて月を
 籠り月 草はつらねさる籠り 身洞
 籠りて人よりく夜ハ籠り 成美

一ノ廿九

春夜

春の夜を詠く 鳥寺は子 身洞
 春の夜は雲を詠く 籠り籠り
 春の夜はあけく 瑞雲寺 乙二
 春の夜はあけく 籠り籠り 士朗
 春の夜はあけく 籠り籠り 籠り
 春の夜はあけく 籠り籠り 籠り
 春の夜はあけく 籠り籠り 籠り
 春の夜はあけく 籠り籠り 籠り

春は花は下とすくはし鳴蛙 朽虫
春は花は下とすくはし鳴蛙 朽虫
春は花は下とすくはし鳴蛙 朽虫
春は花は下とすくはし鳴蛙 朽虫
春は花は下とすくはし鳴蛙 朽虫
春は花は下とすくはし鳴蛙 朽虫
春は花は下とすくはし鳴蛙 朽虫
春は花は下とすくはし鳴蛙 朽虫
春は花は下とすくはし鳴蛙 朽虫
春は花は下とすくはし鳴蛙 朽虫

初打

接木

春は花は下とすくはし鳴蛙 朽虫
春は花は下とすくはし鳴蛙 朽虫
春は花は下とすくはし鳴蛙 朽虫
春は花は下とすくはし鳴蛙 朽虫
春は花は下とすくはし鳴蛙 朽虫
春は花は下とすくはし鳴蛙 朽虫
春は花は下とすくはし鳴蛙 朽虫
春は花は下とすくはし鳴蛙 朽虫
春は花は下とすくはし鳴蛙 朽虫
春は花は下とすくはし鳴蛙 朽虫

初櫻 初花 糸櫻

甲桂花より形よめ住より水

松花

表よりあきりけりけり花

如月けりもあきり松花

菜花

菜花より大なるけり禁より士郎

よめ花よりけりけり入日れ花

よめ花よりけりけり山家けり

よめ花よりけりけりけり

よめ花よりけりけりけり

よめ花より散りけりけり

菊

此秋もあきりけりけり

蕨

土筆 獨活 蒲公英

けりけりけりけりけり

けりけりけりけりけり

けりけりけりけりけり

けりけりけりけりけり

蛙

蛙子 蟻

流へひく影を思ふ心は 桂の丸 壽岡
 海草を生かんとすし 鳴るの
 道とてや 葛の葉に かくるの
 糲はくし 嵐の風を かくるの
 親は親も 多し 泣く 泣く
 何事とす 泣く 泣く 泣く
 世に あり あり あり あり
 田は 桂の けい あり あり
 柳を やしめく あり あり
 浮河心 在 桂の あり あり

丁卅三

深はらう 朝夕を かくるの 月居
 在 桂の あり あり あり あり
 なる あり あり あり あり
 松風 やしめく あり あり
 榴 柿の あり あり あり あり
 蒲 桂の あり あり あり あり
 河 あり あり あり あり
 嫁 あり あり あり あり
 啼 あり あり あり あり
 桂 あり あり あり あり

升六

田螺

日けららやあかきとて蓋は頼 青岡
りけりう田りーれ口けり泡 橋本
啼け田りー晒に揺振る 道彦

蝶

お焚いなるーをそそ夜け下 青岡
さけららいーんらあふて赤 橋本
てりーやかろた影けうらた 士郎
松さーとさか蝶ゆたてやきき
二月はあしーますとて赤

春鳥

うとわにそーかきさあて不 月居
てあまうやあ菊ー把も門あけ 成英
ひりーと暮らーとまけ下
飛ーりーりらたてよけあか

春は鳥ーれつる持より鳥 匠夫
鳥りーりまま外ーる山色か 升五
あまやあおれれーまけ下
降そけかふあまけーまけ下 春例
春は鳥ーあまけーも啼林の 橋本

鳥の鳴く声はすし身をもよおす

喚子鳥 白鳥

東の鳥西の鳥東も西もけり
柴の戸や森の木の鳴子鳥
聲のけりてん耳の山けり鳥
くも鳥の音のけりてん山

鳥巢

鳥の巣は大ききけりてん鳥の巣
鳥の巣は大ききけりてん鳥の巣

春雁

一 雪のふりて雁の春の居
二月のけりて雁の春の居
三月のけりて雁の春の居
四月のけりて雁の春の居
五月のけりて雁の春の居
六月のけりて雁の春の居
七月のけりて雁の春の居
八月のけりて雁の春の居
九月のけりて雁の春の居
十月のけりて雁の春の居
十一月のけりて雁の春の居
十二月のけりて雁の春の居

帰雁

浦のけりて雁の春の居
舟のけりて雁の春の居
橋のけりて雁の春の居
道のけりて雁の春の居
川のけりて雁の春の居
山のけりて雁の春の居
谷のけりて雁の春の居
原のけりて雁の春の居
野のけりて雁の春の居
庭のけりて雁の春の居
家のけりて雁の春の居
町のけりて雁の春の居
村のけりて雁の春の居
郷のけりて雁の春の居
國のけりて雁の春の居
都のけりて雁の春の居
京のけりて雁の春の居
洛のけりて雁の春の居
平のけりて雁の春の居
野のけりて雁の春の居
原のけりて雁の春の居
野のけりて雁の春の居
原のけりて雁の春の居

行きてくも思へし雨夜は雁ひあ
 多き落葉のしひつひまゝ雁 士郎 月居
 小田はる い
 芦花芽の枝のうらやめ い
 つらねのゆわい田はる い
 啼きわきを中 い
 雁 い
 一羽 い
 かゝる い
 相山は油の い

引鴨

月 い
 川 い
 雁 い

雲雀

鳴 い
 山 い
 野 い
 月 い
 居 い
 鳥 い
 鶴 い
 蒼 い
 虬 い

朝うけの養時分は丘は家升六

小 籬 海苔

曉は空押はるゝ小籠うは 奇詠
海苔は上はるゝをすゝゝいゝ夜、し二
はう葉も風、吹そゝ朝けけ

蛤 刺

蛤をいゝゝもし路へ人八年 道長
月は右は言ゝゝゝゝ小籠 奇詠
松うけはまぬゝしは刺計

三 月

籬

三月は雪もあけを浦は山 升六
三月はあけや庭は尾長為 奇詠

をたすのを裡いつゝ籬うきはり 松坐
相は戸下袖さくひれはあか 月居
昔は雪まひれあはくはけは 蒼丸
市は籬小所ゝりもたつひけり 定耳
見せはれ四日は籬は角田川
さうはるゝはまあはひれは 升六

誰れも量はふも出さるり 奇例
ひれつるいづれやりしに唱はれ

汐干

女も少く汐干お門をくはけり 登丸
人を呼ぶも汐干お門をくはけり 升六
掃くも満もくはけり二日お

寒食

寒食や下京の書お門月居
この書もくはけりお門月居

安否居花 壬生念佛

花

やすしお花あま人上西いり 檜堂
山吹と折るるお花あま人上西いり 奇例

白きお花あま人上西いり 士郎
朝お花あま人上西いり 奇例
お花あま人上西いり 奇例
池お花あま人上西いり 奇例
お花あま人上西いり 奇例
お花あま人上西いり 奇例
お花あま人上西いり 奇例

散花と見寄行ぬ又七首と 月居
 花より老木を接するころの
 ころいつく人泣きあがりて花は
 終つてもそのも折れぬつ葉は花
 去るを袖いさるる花衣
 大井川うつしや花より多かり
 花より折れぬ語識はうらなひ
 朝りて心おろしと花は人
 小さなはさしと花はさうり
 いしくと心よ花は寄る那

花より老木を接するころの
 ころいつく人泣きあがりて花は
 終つてもそのも折れぬつ葉は花
 去るを袖いさるる花衣
 大井川うつしや花より多かり
 花より折れぬ語識はうらなひ
 朝りて心おろしと花は人
 小さなはさしと花はさうり
 いしくと心よ花は寄る那

花を折る心いそひもさうりけを
 形もあふふゆふうあを花さうり
 花はけけ我まきしりたきれ
 力のいそひもさうり花はあはれ口
 花をさる公も深さあはれけを
 した人よそいしつたけ花さうり
 花はけけあはれもさうりもさうり
 花やさうりもさうりもさうり
 一日いそひもさうりもさうり
 花さうりつくとあはれも花さうり

花を折る心いそひもさうりけを
 形もあふふゆふうあを花さうり
 花はけけ我まきしりたきれ
 力のいそひもさうり花はあはれ口
 花をさる公も深さあはれけを
 した人よそいしつたけ花さうり
 花はけけあはれもさうりもさうり
 花やさうりもさうりもさうり
 一日いそひもさうりもさうり
 花さうりつくとあはれも花さうり

雲つゝ——小松は枝も折るけり 道長
花はまきく様も紫は花つゝ—— 奇風

藤

咲けけき幸同はさくや松は花
ふら花は花を用はつゝはさくけり
さくけりもさくけりさくけり花
花は花はさくけりさくけり花
花は花はさくけりさくけり花
大空も花はさくけりさくけり
花は花はさくけりさくけり花
花は花はさくけりさくけり花

身はひ下やうらむさくは花
半は尾も風さくけりさくけり
うけけりさくけりさくけり花
りけりさくけりさくけり花
花は花はさくけりさくけり花
山うけや花はさくけりさくけり

山吹

山吹はさくけりさくけり花
山吹はさくけりさくけり花
山吹はさくけりさくけり花

櫻は法螺草ついでにさつう花
 花とこれ何所う来しそちひき
 古子たうも咲くまはる月居
 さ不細草(草)よから二日月
 草挿入くまわくおもさう
 海草草濃草まもくれかふ
 蚕豆花 芋植 苜蓿
 そく草花は花よりおちりけり
 芋植く徳也一人はま火の
 ちさた葉まうはるはからま
 升六

席杖 茶摘

川草山席杖はまはる
 花先はたつう茶摘

雀子

西より木は雀子
 鳥聲や西をさる鳥は雀

鶯巢 郭公巢

鶯は巢より緑は林くつり
 川風や子奴巢の鳴く杜けり

春暮 百友隣 春惜む 春は名残

地ふりし誰よりひきまはる 通る
松林はうけしる夏と秋の
まをむむらんししし 月居
おのひ中しるまはるはる 橋登

行書

ひきとるししししし 奇例
ひきとるししししし 奇例
ひきとるししししし 奇例
ひきとるししししし 奇例
ひきとるししししし 奇例
ひきとるししししし 奇例

二八四

三月書

聖にりしししししし 奇例
ひきとるししししし 奇例
ひきとるししししし 奇例
ひきとるししししし 奇例

俳諧新十宗類題集春部 畢

